



コロナ渦で大切にしたいこと

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が、9月30日まで延長されました。これに伴い、修学旅行が再延長(11月6~8日実施)、体育大会においては今後の感染状況をみながら開催日と内容を考えていきます。このように、新型コロナウイルスの影響で、多くの教育活動を変更せざるをえない状況が続いています。4月に行われました全国学力テストの結果が8月31日に発表されましたが、「学校に行くのが楽しい」と答えた割合が小学6年生で 6.0%、中学3年生で 2.4%下がりました(I)。文部科学省は「新型コロナウイルスの影響で昼食中も会話ができないなど、学校での楽しみが制限されていることが要因の一つではないか」と分析していました。

ソーシャルボンド理論(T. ハーシー 1995)では、どんな健康な人でもソーシャルボンドに支えられていると言われています。ソーシャルボンドを要約して表すと「絆」のことだと思います。普段は見えない絆でも、別れなどの場面で気づくことはありませんでしょうか? “失って初めて気づいた絆のありがたみ”というフレーズを聞きませんでしょうか? 学校教育では、見えない絆を見る化する働きかけが大切だと実感しています。本校では、その取組の1つとして“世界に一つだけの花”と称した取組を学校ホームページ上で行っています。

しかし、コロナ渦である現在、絆を見る化する取組は制限されています。授業での班活動、学校全体での縦割り活動など、普段は当たり前の活動が当たり前ではなくなっています。そのような中、どのような代替方法があるのか教職員で模索する毎日です。延期された修学旅行、体育大会。生徒達に少しでも思い出に残る取組になるように実施して参ります。

(I) 本校の全国学力調査の報告は、10月の学校だよりで報告させて頂きます。

★★★【前期】学校評価(保護者)アンケートの結果と考察★★★

今年度の学校評価(保護者)アンケートは、7つの項目について新しい設問を用意しました。これは、本校の目指す生徒像【自ら求め自ら学び創造する生徒】【人権を尊重し他者と共に生きる生徒】【心身ともに健康で感性豊かな生徒】に照らし合わせて作成しました。 *詳細な集計結果は、学校ホームページに記載しています。あわせて、学校だよりも掲載していますので、ご参考下さい。

(今年度からの新しい設問)

I 子どもは適切にタブレットを活用することができる。

→ 肯定的回答 93.2%

II 教職員は、学校教育目標の達成に向けて組織的に取り組んでいる。

→ 肯定的回答 93.1%

III 子どものよいところをほめるなどして、自信をもたせるようにしている。

→ 肯定的回答 93.1%

IV 子どもに努力することの大切さを伝えている。

→ 肯定的回答 93.9%

V 子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝えている。

→ 肯定的回答 92.4%

VI 子どもは地域行事等に参加している。

→ 肯定的回答 38.5%

VII 子どもは「道徳」の授業で扱った教材や内容について、家で話題にすることがある。

→ 肯定的回答 36.4%

IからVについての設問は、どれも90%を超える結果でした。VIについては、コロナ渦の影響を大きく受けた結果ですが、VIIについては校内の道徳系での検討課題として、教材の設定や発問の工夫など、様々な角度から分析していきます。

次に、昨年度より肯定的な意見が下がった項目について分析しました。



昨年度より低下した項目

- ① 子どもは学校の授業を「わかる」と言っている。
- ② 子どもは部活動に楽しく熱心に参加している。
- ③ 子どもには困ったことや悩みを相談できる友人がいる。
- ④ 子どもは家で予習や復習、宿題等の勉強ができる。
- ⑤ 子どものことについて、先生と気軽に相談できる。
- ⑥ 学校は一人ひとりを大切にした教育活動をすすめている。
- ⑦ 子どもは「早寝・早起き」を心がけている。
- ⑧ 子どもに家族の一員として、役割と責任をもたせるようしている。
- ⑨ 子どもに規範意識（マナー・モラル等）について教えている。
- ⑩ 子どもには家庭での読書習慣がついている。
- ⑪ 子どもは配布物を必ず見せ、学校のことをよく話してくれる。
- ⑫ PTA活動には、できるだけ参加したいと思っている。
- ⑬ 子どもと将来の夢や生き方について、できるだけ対話している。

13設問で割合の低下がみられましたが、多くの設問は、75%を超える肯定的回答でした。後期の学校評価アンケートに向けて、これらの評価が改善するように取り組んでいきます。特に、**設問⑤**については、肯定的な回答が70.3%と昨年度より3%下がっています。

設問⑥についても80%を超える肯定的な意見であるもの、2%程度の低下が見られます。この結果を真摯に受け止め信頼される学校づくりを見つめなおしてまいります。

設問①については、約22%の否定的な回答でした。生徒が、授業を「わかる」背景には授業での欲求の充足が必要だと考えています。学校教育における欲求の源は、安全の欲求、次に社会的欲求です。本校では、どのクラスでも落ち着いた状態で授業が受けられていますので、安全の欲求は満たせられています。となれば社会的欲求（教育では交流の欲求とされています）を充足することが必

要であると考えています。

令和2年度に文部科学省が公表した「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、不登校の割合が年々増加傾向にあります。その背景に、子どものソーシャルボンドの低下、コミュニケーションスキルの低下が言われています。これらを改善するためには、グループ学習や縦割り活動の在り方を改善し生徒同士の交流を活性化する必要があります。そのためにはGIGA構想により生徒全員に配布されたタブレット端末を利用して、生徒同士の交流場面をどのように設定していくのかの授業改善が求められます。現在、ロイロというアプリケーションを使った授業展開が、多くの授業で行われています。それぞれの先生が、より有効な活用方法について、日々研鑽を積んでいます。このような日々の実践を通して「わかる」授業の構築に努めています。

♪花にも個性がある♪



夏休み前に公募をおこなった学校運営協議会主催の“はるかのひまわりプロジェクト”にて、4人の生徒達が見事、美しいひまわりを咲かせました。その功績をたたえて、17日に表彰式を行いました。

このプロジェクトの理念は、「人の尊厳」と「人との関わりの大切さ」を知る感性豊かな地域社会を醸成する事を目的としています。

私達は、西ノ京中学の生徒達の個性が混ざり合い、自己の幸せをさらに豊かにすることを願っています。今年、咲いた4輪を写真にして提出してもらいましたが、同じ種ながら、それぞれに違う形の花に育ったことがわかります。このことからも、生徒の一人ひとりの存在がいかに尊いものなのかを改めて感じました。今後も、生徒達を真ん中に置き、ご家庭と学校で協力して、生徒達に教育していくたいと思います。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「京都はぐくみ憲章」を実践しましょう！

